

審 議 結 果

1. 日 時 令和元年10月21日(月) 13:30～15:30
2. 場 所 益田市役所本庁3階 第1会議室
3. 会 議 名 令和元年度第1回 益田市立学校整備計画審議会
4. 出 席 者
 - *別紙名簿のとおり
 - *欠席 川本 和味委員 大畑 伸幸推進監
 - *傍聴 なし
5. 開会
 - *司会 山本教育総務課長
 - ・山本教育総務課長
 - ・ただいまより、第1回となります益田市立学校整備計画審議会を開催します。皆さまには、ご多用の中ご出席いただきありがとうございます。本日の司会進行を務めさせていただきます益田市教育委員会教育総務課長の山本でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。本日の会議は、益田市附属機関設置条例及び益田市立学校整備計画審議会規則の規定により運営してまいります。本審議会は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができませんとありますが、本日は委員11名中10名が出席しておられます。よって、会議が成立いたしますのでこのまま進めてまいります。なお、この会議については、議事録を作成する上で発言等について録音させていただきます。ご了承くださいますようお願いいたします。
6. 教育長あいさつ
 - ・山本教育総務課長
 - ・それでは、開会にあたりまして益田市教育委員会柳井教育長がご挨拶申し上げます。
 - ・柳井教育長
 - ・皆様、こんにちは。益田市教育長の柳井です。本日は、ご多用の中を益田市立学校整備計画審議会にご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃は本市の教育行政に格別なるご支援、ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。昨年の「今後の小中学校のあり方に関する基本指針」策定にあたり、審議会会長をはじめとする委員の皆様には多大なるご尽力を賜り、今後の学校再編に関する大きな柱を立てていただくことができました。この基本指針に基づき、地域全体で本市の子どもたちの育ちを支える仕組みを作り、未来ある子どもたちの教育環境の充実に取り組んでいるところです。さて、本年度は基本指針の具体的な取組を記載する「小中学校再編実施計画」を策定することとしております。また、本市は改築中の学校を含め、未だ6校の未耐震校を抱える中、耐震化推進に特化した「学校施設整備計画」を策定し、それぞれの計画を策定することで、子どもたちの安全・安心な教育環境の確保を進めて行くこととしてまいります。この計画策定に際し、今一度皆様方のお知恵をもとに様々な観点から調査研究等を行いながら、計画策定を進めてまいりたいと考えております。学校は、子どもたちの教育はもちろん、地域コミュニティの核としての役割、災害時の避難所としての役割など、時代が変わる中で、様々な役割が期待されてきているところです。そのあたりを踏まえつつも、教育委員会としては、学校の

使命は、児童生徒の教育が第一であり、学校教育の目的や目標をより良く実現するために再編実施計画や施設整備計画は作られるべきものと考えております。委員の皆様におかれましては、それぞれの立場で、様々な観点・視点から忌憚のないご意見を交わす中で、答申をまとめ上げていただきたいと考えております。これから策定する二つの計画が、子どもたちにとって、そして益田市にとって素晴らしい計画となることをお願い申し上げ挨拶とさせていただきます。

・山本教育総務課長

7. 委員の委嘱及び紹介について

・山本教育総務課長

・ありがとうございました。

・次に、委員委嘱及び紹介でございますが、委嘱につきましては、昨年8月に2年の任期を以て11名の委員をお願いいたしまして、その内で今年度の人事異動等により3名の委員が交代となりました。既に新任の皆様方には委嘱状を配布させていただいております。時間の関係上、配布をもって委嘱状の交付に代えさせていただきますのでよろしくお願いいたします。次に事務局職員の紹介をさせていただきます。昨年度からの顔ぶれに一部変更が有りましたので、紹介させていただきます。

*司会から事務局職員紹介

次に委員の皆様にご自己紹介をお願いしたいと思います。

*各委員自己紹介

8. 審議会スケジュール等(案)について

・山本教育総務課長

・続きまして、今一度本審議会の目的、開催スケジュール(案)について、事務局より説明いたします。

・齋藤推進室長

*「審議会の目的、開催スケジュール(案)について」説明(資料1-1~1-2)

・山本教育総務課長

・ただ今ご説明いたしました議会の目的、スケジュールについてご質問がございますでしょうか。年末までの限られた期間内でご審議いただくこととなります。皆さま方にはご苦勞をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

9. 議題

(1) 諮問について

・山本教育総務課長

・それではこれより議題に入ります。まずは「議題(1)諮問について」です。はじめに、柳井教育長から本審議会会長へ諮問書を提出させていただきます。

*諮問書読み上げ

・柳井教育長

*教育長より審議会会長へ諮問書提出

・山本教育総務課長

・教育長が読み上げました諮問内容について、委員の皆様におかれましては今後の十分なお審議をいただきますようお願いいたします。ここで、柳井教育長は公務のため退出させていただきます。続いて、議題(2)に移りますが、規則によりまして、会長が議長になります。ここからは審議会会長に進行をお願いいたしますのでどうぞよろしくお願いいたします。

・審議会会長

・それでは、今後の議事を進行いたします前に、本審議会は公開することとなっ

ております。傍聴を希望される方がおられましたら、傍聴者の入室を許可することになります。事務局の方で確認願いますが傍聴希望者がおられますか。

-- 事務局 確認 --

おられないようですので議事に移ります。

答申の理由について、かなり詳しく述べられていたが、益田市の学校の姿について答申を行った。それに基づいて、今年度は具体的な計画の作成、施設整備の計画を作るということで、宿題が増えているような気がしており若干重荷を感じている。その中で、昨年度の答申から1年弱しか経っていないが国内外の状況は変化したように思う。特に、教育関係では高等学校が地域振興の核になるということを文部科学省が政策として打ち出してきた。今までではとても考えられないことで、学校教育至上主義という路線や社会教育至上主義という系統的な色合いが強いのがお役所であったが、最近局の名前を変えてまでフラットな政策を打ってきている。率直に言って、地域の現場より霞が関の方が先を越したような形になっている。先生方多くいらっしゃるが、新しい指導要領が順次完全実施され、高等学校でも学年進行で実施されるということで、この10年間は大きく学校教育そのものの意義、意味が変化すると考える。一方で、地域づくりの核であったり、地域とともに有る学校像についてはこの益田地区らしいものができると考えている。人口減少そのものは止められないが地域の元気さは維持できると考えている。そのためのツールの一つが学校であり、もちろん学校教育の目的を果たすという意味は言わずもがなであるが、その上で、更に色々な機能を兼ね備えた心の拠り所になるような学校が整備されればと思う。最後に、どの学校をどのように設置していくかについては色々なご意見が有ると思う。案を作るにあたって、打ち合わせをするが教育委員会から何も入知恵はない。一切腹案は知らされていないので、フラットな状況で審議せよだと思っている。皆さんから、忌憚のないご意見をいただいて、短い期間ではあるが良い答申ができればと思う。

(2) 基本指針策定後の地域等における状況について

・ 審議会会長

・ それでは、議題の(2)に入らせていただく。「基本指針策定後の地域等における状況について」事務局から説明をお願いします。

・ 齋藤推進室長

* 「基本指針策定後の地域等における状況について」説明(資料2-1~2-7)

先ほどより地域の実情などについて説明を行ったが、今回の学校再編について、小学校は基本的な考え方として、学校施設の中に公民館、自治組織、放課後児童クラブなど公共機能を取り入れて、学校を核とした地域づくりを進めていくことを可能にする施設のあり方を論点として進めていきたい。小学校は、この後行う施設整備についても関わってくるのでご意見等をいただければと思う。中学校については、説明会での意見、アンケート結果を踏まえ具体的な学校名を出しつつ地域的な学校配置のバランス、複数クラス編制が可能な現有施設の

状況を考えた学校配置のあり方などを論点として、基本指針の計画期間最終年のところまでの具体的な計画を答申としていただきたい。

- ・ 審議会会長
 - ・ ただいま説明のありました「議題（２）基本指針策定後の地域等における状況について」はかなり大きな議題であり、１年の休みが有り一方で答申までわずかしかないことで、相当慎重に審議しなければいけない。本日は初回なので最終的には全員発言いただきたい。あと、説明以前のことについて進め方とかどこまで答申するのか共通理解を図りたい。進め方や答申に向けてのあり方、具体像などについて委員の皆さんから質問はないか。なければご理解いただいたものとして進めたい。私も十分見えていないが、計画については計画書を出すのか。
- ・ 齋藤推進室長
 - ・ 計画としては答申の形でいただくことになる。今、諮問した内容についての答申であり、できれば二つの計画について答申をいただき計画を作成したい。
- ・ 審議会会長
 - ・ 昨年度は、基本指針について２－１をほぼフルセットでこの場で協議した。そのような物を持ってやるのか、それともこういう趣旨でやると答申するのか。
- ・ 野村教育部長
 - ・ その辺りが委員の皆さんにイメージしづらい部分であると思う。こちらとしては、本日すぐに成果品をお見せするのは無いだろうと考え、資料としてつけていない。本日添付している資料で益田市の学校がおかれた現状をご理解いただくとともに、昨年の指針を思い出していただきたい。次回には、具体的な学校名を出して、再編計画案をお見せできたらと思っている。最終的には、再編の仕組み的な部分が文章になるか表になるかは審議の内容による。成果品の計画になる一歩手前ぐらいの所で答申をいただきたい。具体的には、小学校に抱き合わせる機能の考え方、中学校については学校名を挙げた再編のパターン、「こことここが再編する」という流れ。もう一点はこの後説明する未耐震施設が６か所あるがその整備の年次計画、この三点を答申いただきたい。昨年のように出来上がったものまではいかないかもしれないが、学校再編実施計画の内容を答申いただきたい。
- ・ 審議会会長
 - ・ 今の見解についてご意見はないか。議論のスタート時点ということで、協議中で今言われたことと違う答申も我々の権利なので委員の皆さんには協議の中でお願いする。説明、資料に対する感想、意見、新たな論点等お話をいただきたい。
- ・ 委員 A
 - ・ 諮問事項の①に小学校についてとあるが、現在、益田市の小学校について公共機能を取り入れているのはどんな状況か、資料としていただかないと、意見が言えない。自分の学校のことは分かるが全体の様子が分からない。地域自治組織について、地域の実情や取り巻く状況や進行状況が違っていると思う。それを抜きにして小学校云々となると、現在の益田市の状況を見えるようにしていただきたい。去年のイメージだと②の話をして終わりのような気がしていた。そうでないことが初めて分かった。今の話は今までの資料としていただいていない。そもそも論だが、このようなものを生かした地域づくりを進めるとか、学校へ公共施設を入れることは指針に書かれているので、具体的な話になるか

もっと大きな話になるか、1については感じました。2については中学校をイメージしていると捉えるが、今後5年間、令和2年度から6年度までの児童生徒数の推計、校区の実情、それぞれの地域からの皆さんの思いがたくさん詰まっているということがここに書いてある。1学年36名以上を目指すとなると、どのようなバリエーションが有るのか、そこらあたりが見えるようにしていただかないと推計資料だけでは、校区の問題、地域同士の繋がり等、益田市内にはいろいろな背景を持った地域が有り、これまでも関わってきている地域も有る。そこらあたりのバリエーションを含めた具体的な姿を見せていただくと発言がしやすい。

- ・ 審議会会長
- ・ 委員 B

・ 後段で(3)についてとあるのでそちらはそちらで発言いただきたい。

・ ①について、桂平小、西南中に勤務した経験が有る。やはり、地域との密着性が非常に高くこれは他も同じだと思う。経験から言えば、西南中の時は、少人数をカバーするため、運動会を地域の三世代交流の場としたり、老人を含め、いろいろな活動を行った。また、普段の授業の中に地域の方に入ってもらったことも有ったが、できれば学校の中に活用できるスペースが有ればいいと感じていた。可能であればそのようなことを取り入れればみんなの目で子どもたちを育てる、皆さんの生きがいに繋がる部分ができるのではないかな。いろいろな環境によってまちまちになり一斉に行うのは難しいかなと思いながらお話を聞いた。②については、やはり、中学生の発達段階を考えると、人数がいて切磋琢磨する環境は非常に大事である。先ほど述べたように、西南中で勤務し、その他の小規模校で勤務した経験も有る。小規模校のよさもたくさん有り、一人が色々な役割を果たしながら成長していく部分は有るが、同年代の中で磨きあう部分が必要であると思うので、擦り合わせがうまくいって進んでいくといい。津和野中に勤務していた時、津和野中と木部中が統合して校区がかなり広くなった。広くなったことによるプラスの部分と学校としての一体感の部分のバランスが難しいと実感として感じた。やはり、A委員の意見に有ったように慎重に協議する必要が有る。

- ・ 審議会会長
- ・ 委員 B
- ・ 審議会会長
- ・ 委員 C

・ 木部中が統合した時、委員長をしていた。

・ その後は順調に溶け合っているいい形で動いている。

・ E委員までご意見をいただきたい。

・ 資料を見せていただいて考慮すべき点がたくさんあると感じた。勉強不足だが、他地区、他県でもコミュニティースクールで地域と密着した活動をされているので、他に目をやって参考になるものが有れば気を付けておきたい。益田では豊川地区が先行して行っておられるので、いい面、全体で取入れ可能な面が有れば皆で好学したうえでより良いものができればと思っている。できれば、中学校も同じようにしたいが、中学校は再編が上がっているの、匹見地区のような義務教育学校や小中が連携して何かできないかを感じている。単純に再編でなく地区の特徴を生かした、中学校だけでなく小中合わせた再編が何とかならないか考えている。高校でも言っているが、益田地区では小中高の連携がま

すまず大事になってくるので、中学校単独でなく、いかに連携が図れるかの議論ができればいい。

- ・委員 D
 - ・安田小校区ではかなり昔から地域との繋がりが強く、放課後児童クラブが有りながら学校外にもボランティアハウスも有る。教科の中では、地域の名人の方に来てもらっている指導を受けている。益田市内では一番大きい、我々も自負する「コスモスの集い」が昨日行われた。午前中に、地域の方々を講師に招いての活動を行ったり、午後は PTA 活動を行ったりした。それで得られた収入は学校の活動に活用している。①を見た時、あえてどうなのかと感じた。できている所も多く、どこの地域もできている気がする。公民館や地域自治組織とともになんとなく分かるが、その辺りで交流を深めながらあえて小学校にこの機能を持つてくるのはどうかかと自分としては感じた。②については、東陽中に子どもが通っているが、今年、鎌手中と統合した。どうなるのか不安であったが、鎌手の子どもを迎えて、馴染んでお互い行き来しており、子どもを見ても、活力が出てきたように感じている。中学校の統合はわりと刺激になると感じた。
- ・委員 E
 - ・アンケートを見た時、皆さんの意見一つ一つを大事にした方がいいような気がした。ざっとしか見ていないから分からないが、皆さんの思いが良く分かるのでその辺りを大事にして考えたい。先ほどあったが、義務教育学校など、地域ごとの特色を出して小中でやるというのはいい感じだと思った。そうすると、前回までの話が変わってくるような気がする。
- ・審議会会長
 - ・ここまでの所で、事務局として考えが有れば願います。
- ・野村教育部長
 - ・まず、放課後児童クラブ等の資料については、現在、手持ち資料が無いので次回、見やすい資料を提出したい。中学校は人数が欲しいという意見、校区が広がるので多少難しくなるという意見が説明会でもあった。そのとおりであると思った。コミュニティースクールについては、豊川小は非常に頑張っていて、地域の方が前面に出て引っ張っていらっしゃるので、現状について分かるものが有れば準備したい。小中学校の考え方について、義務教育学校という考えも有る。益田市は地域が広いので、再編を行っても通学区域が非常に広くなり、きちんと確立できるかという問題があるので、その辺りを答申の内容に挙げるのに事務局として一定程度の整理が必要である。小学校は色々な面で頑張っているところがほとんどであるが、安田小は種小学校と北仙道小学校が統合しているので、種地区、北仙道地区の方々に「小学校を残しますとした場合、自分たちの地域は小学校が無くなったのに」云々という意見もいただいた。それは忘れてはいけないことである。東陽中は活力が出てきたと言っていたが、教育委員会としては大変うれしい言葉であった。生徒、保護者アンケートではよい意見も有り悪い意見も有るが、前半としては穏やかに進んでいると思う。アンケートはこちらとしてしっかり読み込みましたが、再度、どのような点をポイントとして積みあがるか検討したい。
- ・委員 F
 - ・①については他の方と意見がかぶる所も有るし回答もいただいたのでおいてお

く。②について、保護者、地域の方を含めて134の有効回答で、これで過半数の支持であるというのは数字の所で疑問が残る。中身の意見はバリエーションが出ていると思った。回答いただいた皆さんが言われたいの、いきなり地区を越えた統合までの中に、義務教育学校であったり、市内の大規模校が小規模校へ来ることも有るのではないかという、間の段階をもう少し選択肢として捉えられておりそれに対する回答がいただきたいと思っていられるのではないか。是非、その考え方もお示しいただき答申ができればと思っている。スケジュールが気になっていて、今回のアンケートは基本的な部分に関するアンケートであって、具体的に学校名を挙げた中での組み合わせに関して答申を行い、それを受けての保護者の意見の集約を行ったら意見が変わってくると思うので、その辺りをどう担保するかむずかしい。

・委員 G

- ・①について、小学校と公民館、自治組織、放課後児童クラブは確立されている。横田地区では、保育園から小・中学校、養護学校まで巻き込んで、公民館が中心になって地域自治組織など色々な組織が絡んで取り組んでいる。中学校の体育館や校庭をお借りし体育大会、文化祭、地区グランドゴルフ大会など行っている。高津川が有るので、川に馴染んでもらうということで養殖の鮎ではあるが放ち皆さんに掴んでいただき喜んでいただいている。また、川の中には色々な動物がいるので、川底をさらい網で掬って調べている。同じようなことを国土交通省も行っている。あと、西益田は統合していて範囲が非常に広く豊田地区と神田地区に分かれている。昭和43年に小学校の学校再編も終わっている。広すぎて地域自治組織の活動も大変である。地区によって条件が異なり、3～4地区に分けて考えなければいけない。地域自治組織の会長が一人で済むところを三人で分担している。三人いれば誰かが都合が悪くても代わりに出席できるので助かっている。アンケートについてあったが、私は真砂中から横田中に転校したが、いじめにあったこともなく色々な人と知り合えた。

・委員 H

- ・アンケートの結果が10年前の答申に比べると小規模校、中学校の統廃合について市民の理解が浸透しつつあると思う。賛成が増えているが、10年前のアンケートでは反対が60～70%で、その10年前は80～90%は猛反対であったと記憶している。やはり、子どもが減ってきている以上は、地域の在り方より子どものことを考えようという気持ちが地域に根付いたと感じる。それと、地域と学校の関わりも大切で、色々な地区で関わりをもっていると思うが、あまり地域が入り込むと、授業時数が足りなくなる恐れが出てきて、いままで15分であったものを10分にしてくれなど絞ってくる可能性もあり、その辺りも考えなければいけない。中学校の場合は、大規模校、中規模校、小規模校と有るわけだが、益田市全体の問題としてスポーツの選択、部活の選択、文化部の選択の問題が生じている。統合しても、野球は有るがサッカーがないとかサッカーは有るが野球がないなどの問題が生まれてくる中で、市全体でスポーツをどのように割り振りするか考えなければいけないが、子どもたちに色々な機会を与えることは考えるべきである。そのような面も考えながら再編につい

て考えることも大切である。

・審議会会長

・時間が限られるので、私の意見を述べたうえで事務局から回答をいただきたい。アンケートについてのみお話しします。まず、有効回答134のアンケートをやってしまうのは罪なことである。私も研究でアンケートを行うが、ものすごい覚悟をもってやっている。やってしまったら結果が求められ、数字が独り歩きする。回収数が有意なのかどうか、地区で割ったらほとんど無意味である。でも、やったからには数字を公表しなければならないので数字が一人歩きする。研究者として、行政が責任ある行為をしたと思えない。ですから、今後行うときは心してやっていただきたいし、このような場合はアンケートという言葉を使わない。答える側が無責任なまま、その時の気分で回答する。気持ちは反映しているが地域の総意とは限らないし、一世帯でも色々な考え方が有る。おそらく、調査票を見たらもっと気になる所が出てくると思うので、今後行う場合は細心の注意をはらっていただきたい。個人的には行わない方が良いと考える。私はすべきではないと思う。意見を聞くことは大事だが、アンケートを行うことは、やり易いが大変だと思う。今年度、出雲市佐田町で全世界帯にアンケートを行った。それだと1,000世帯にできるので1000分のいくつと言える。例えば、これで80%反対ならできますか、できないでしょう。134分のいくつでは根拠が有りますと言えない。非常に慎重にしていきたい。回答については非常に興味深いものがあるのでE委員やF委員がおっしゃるように丁寧にお答えいただきたい。回答の記述を見ると大きく三つある。一つ目は小規模校に理解を示すことが大事で、小規模校でも存続すべきだという意見と小規模校はいろいろ支障をきたすという意見が有る。おそらくこれは両側面あると思うので分かり易く説明する必要が有る。もう一つは、学校のことを考えると地域の事を考えざるを得ない。地域の将来はどうなるのか、そのことによって学校の在り方が変わってくるという声が垣間見える。そのことはこの会議として真摯に受け止めなければいけない。後段の意見について事務局からお願いしたい。

・野村教育部長

・まず、F委員のご意見について、今後の進め方についてこちらが宿題として持ち帰ったもので別途考えていきたい。この計画そのものは3月までに作成し地域に説明をする流れになると思う。G委員さんの件について、西益田地域は地域自治組織設立の前後、学校との関わりを大切にされていて地区の盛り上がりも大きいと私どもも認識している。おっしゃたことは、昭和40年代に再編を体験され広い地域で、バス通の子どももいるのでいいお手本として紹介ができると思っている。H委員さんの10年前と比較すると様子が変わってきているということだが、美都地域は地理的な要素で中学校進学時に校区外の学校を選んでいるという状況が昨今増加している。このことが、地域の方の心配事であり、仕方ないなというあきらめの状況であると思う。なかなか難しい。昔は子どもが一過の大問題になったが、今は社会体育がどうのこうの軽々しいことは申し上げられないが、社会体育のあり方も含め今後整理する必要が有る。アンケー

トのあり方に対する会長の指摘について、そのとおりだと思っている。考え方の基本が誤っていたかなと思う。地区別回答者の内訳が、これだとどうなんだとなる。出席された方は結構回答いただいたが、結果として大変少ない回答になった。出席人数に対する回答という表現での修正はこの資料でできないことはないが、数が少なすぎて資料として出せるか疑問に思う部分もある。過去、私が体験した道の駅のワークショップに非常に参加人数が少なく、これが本当の市民の意見かと問われたとき、答えに窮したことも有った。参加者数はこれより多かったが答えていただいた方の人数が少なかったということである。

- ・ 審議会会長
 - ・ 野村教育部長
 - ・ 審議会会長
 - ・ 野村教育部長
 - ・ 審議会会長
- ・ その意味で、説明会でアンケート結果ということか。
 - ・ そのとおり。
 - ・ 分かりました。そのようなことなら理解できる。今後、学校再編に賛成ですか反対ですかとやるといろいろなことが立ちいなくなる。だから、この審議会は大所高所で判断しないといけない。
 - ・ こちらも気を付けて当たりたい。
 - ・ それでは次の説明を聞いてからご質問をいただきたい。

(3) 未耐震施設の耐震化と学校の拠点施設整備について

- ・ 田淵施設係長
 - ・ 審議会会長
 - ・ 野村教育部長
 - ・ 審議会会長
 - ・ 野村教育部長
 - ・ 委員 A
- * 「未耐震施設の耐震化と学校の拠点施設整備について」説明（資料 2-8～2-9）
 - ・ ③については、学校再編計画とセットであって切り離すことができない。もう1点は学校施設のあり方だが、この会で審議しないといけないのか。諮問されているからやらないといけない。
 - ・ 難しところであると思う。小さい自治体が学校を建てるとなると、正直に言って金銭的、作業的に労力のいることである。小学校を良いものとして使い切りたい、活用したいという思いが有る。豊川小がコミュニティースクールとしての動きをしているが、そのように地域が学校を活用してどのように伸びていくか、その点を審議会の皆さんにイメージとしてこのような方向性が良いという点をご提示いただけると嬉しい。
 - ・ ③について、ご意見、ご質問が有れば願います。今の③に関して言うと、答申のマテリアルとしてどのようなイメージをされているのか。例えばA4用紙何枚とかあるのか。
 - ・ それについては、非常に簡素なものになろうかと思う。対象校がそこに挙げられているが6校ある。その内1校は今年出来上がるので、非常に簡素なものになるイメージは持っている。
 - ・ ①とは性格が異なって、5校についてどのような方向性が有るかということでもよろしいか。③に関わらず、①、②についてもご意見をいただきたい。
 - ・ ③だけでなく①、②にも関わってくると思うが、益田市にとっては、豊川小校区コミュニティースクールは全国に情報発信できるような取り組みである。その中で、地域交流スペースを含め、子どもたちも含む住民も参加してアイデア

づくりを行うことが、地域の活性化や住民の皆さんが夢は実現すると実感できるような姿である。③について、いただいた地域交流スペースを使って、地域の皆さんや毎日使う子どもたちの夢や思いを活かすことが人を大事にする「ひとが育つまち益田」のまちづくりに繋がり、学校教育にも繋がってくる。①のような公共機能という機能が良いかどうか分からないが、小学校に色々な人が関われるような施設の使い方や予算化も含め、子どもたちの声を聞きそれを実現するような考え方を受け作るようになっていければと思う。吉田小学校は空き教室が全くないが、子どもたちの声を聞きながら夢を実現できるものを作っていきたい。今年の吉田小学校のキャッチフレーズは「ドンチャレでかかわり吉田をつくろう」で、ドンチャレとはドンドンチャレンジする、それは、自分たちの意見を先生が聞いてくれ仲間も聞いてくれることが「ひとが育つまち益田」の実現に繋がっていくということ。できる範囲で良いが、そのようなビジョン、子どもたちの声も生かし、それにかかわる人たちの思いや夢が実現できるような場ができればと思う。①、③の地域の拠点づくり、まさに豊川がいる姿を地域に実現できることが大事である。

- ・ 審議会会長
 - ・ 野村教育部長
 - ・ 審議会会長
 - ・ 齋藤推進室長
 - ・ 審議会会長
 - ・
- ・ 今のご意見に異論はございませんよね。次の会の時、豊川小を見学できないか。
 - ・ その辺りは調整する。次回は午前である。
 - ・ 会を終えて豊川小で給食を食べればぴったりだ。審議期間が限られているので我々は誠意を持ってやれることをやらないと市民の皆さんは納得しない。せめて、その日ぐらいは意見交換を行いたい。皆さんのご都合はどうか。
 - ・ 調整を行いたい。
 - ・ 委員の皆さんには毎回そうなるかと思うが、時間が限られているので言い尽くせなかったことや細かいことは書面や口頭で事務局に申し出て欲しい。今日の宿題として、アウトプットが見えないのと具体的な情報で議論せよとの声がありましたので、次回は原案をいきなり出すと意見が出にくいと思う。あえて出されていない中で皆さんの意見を聞きながら対応したい。委員長権限でこれを説明すると、今日はあまり話題にならなかったが具体的な中学校の再編を考えるといくつかの中学校を具体的にどうするかになる。昨年度の審議会でも話題になったが、匹見地域においてはどのようにしていくのかこちらでの判断が大事になる。面積は非常に広いが子どもの数は少ないのでこのあたりはどうなるかということで、材料として益田市として匹見地域をどうとらえるか、新市建設計画などを見ながらご検討いただくために資料を準備いただいたので皆さんも目を通していただきたい。まだまだ言い足りないと思うが今日の所はここまでとして後は事務局から連絡をいただく。

10. その他

- ・ 山本教育総務課長
 - ・ 齋藤推進室長
- ・ 審議会会長さまありがとうございます。その他ということで事務連絡がございます。
 - ・ 貴重な意見ありがとうございます。次回は11月11日月曜日、10時から市民学習センター202号室での開催となります。次回、審議の際にできる限

り事前に資料をお送りしたいと思います。資料については本日の意見を踏まえたものにしたい。出欠についてはFAX、メールで連絡をいただきたい。豊川小の見学については調整してできる限り対応したい。それも案内に書かしていただきたい。

- ・山本教育総務課長
- ・全体を通して皆さんから意見がございませうでしょうか。ございませうでしたら、予定の時間になりましたので以上をもちまして第1回の審議会を閉じさせていただきます。

以上